

## Indeed が「シニア世代の就業」に関する意識調査を実施

50代～70代の約6割がシニア期も働く意欲・必要性を持つ一方で、9割以上が不安や課題あり  
やりがいを重視する「アンコールキャリア」への興味は約6割にのぼる

世界 No.1 求人検索エンジン\* 「Indeed (インディード)」の日本法人である Indeed Japan 株式会社 (本社: 東京都港区、代表取締役: 大八木 紘之、<https://jp.indeed.com> 以下 Indeed) は、10月の「高年齢者就業支援月間」を前に、50歳～79歳の1,800名 (世代、男女で均等割付各300名) を対象に「シニア世代の就業」に関する意識調査を行いました。

現在日本では、シニア世代の就業者数が年々増加しています。そこで、今後さらに高齢化が進む日本において特に課題となってくるであろう、シニア世代の仕事探しやセカンドキャリア<sup>\*1</sup>、アンコールキャリア<sup>\*2</sup>の構築を支援したいと考え、本調査を実施しました。その結果、約6割が60代・70代以降 (以下、シニア期) も働き続ける意向や必要性を感じている一方で、9割以上が不安や課題を抱えていることがわかりました。また、アンコールキャリア<sup>\*2</sup>に興味を持つ人も約6割いることがわかり、シニア世代における仕事のやりがいの重要性も示唆されました。

Indeed は「We help people get jobs.」をミッションに掲げ、あらゆる人々が公平に自分にあった仕事を見つけられるような社会の実現を目指しています。本調査で明らかとなった結果も踏まえ、シニア世代の仕事探しや就業の支援も続けてまいります。

※1: 本プレスリリース内におけるセカンドキャリアは、60代・70代以降のシニア期における働き方や仕事を指しています。

※2: アンコールキャリアは、人生の後半のキャリアを指し、一般的に60代以降に始める仕事ともいえます。定年退職後に個人的な関心ややりがいを重視して始めることが多く、個人の情熱やスキル、経験を役立てられる仕事で、社会貢献を目的にしている場合もあります。教育関連やヘルスケア、環境、社会サービス、NPOや行政機関でのサービスに関連した仕事が多いことも特徴です。

\*有識者コメント (法政大学経営大学院 藤村博之教授) は P3 を、調査結果詳細は P4 からをご確認ください。

### ■ 調査結果要約

#### 1. シニア期 (60代・70代以降) に働く意欲や必要性の有無

- 50代～70代の58.3%がシニア期も「働きたい」もしくは「働く必要がある」と感じている。
  - 年代が低いほど働く意欲や必要性を感じている割合は高く、50代で75.5%、60代で58.3%、70代で41.0%。
  - 現在就業している人は、雇用形態問わず約9割がシニア期も働き続ける意欲・必要性を持っている。
- 約6割がアンコールキャリアに興味あり。
  - シニア期は「収入よりもやりがいや社会貢献を重視した仕事をした方がいい」と考える人は全体の58.0%、シニア期も働く意欲・必要性がある人の中では60.2%が該当。
  - 年代が上がるほどアンコールキャリアへの興味は高まり、50代で49.5%、60代で56.8%、70代で67.7%。

#### 2. シニア期も働くことに対する不安や課題

- シニア期も働く意欲・必要性がある人のうち、92.7%が働くことについて不安や課題を抱えている。
  - 不安や課題で最も多かったのは「健康状態を維持できるか」次いで「働く気力を維持できるか」。

### 3. シニア期の働き方の検討

- **55.9%が、シニア期の働き方について具体的に検討・行動を始めている。**
  - 検討・行動を始めたタイミングは、「60歳以降」が33.0%、「55歳～59歳」が31.0%、「50歳～54歳」が23.9%。
- **シニア期も働く意欲・必要性がある人のうち、22.6%は働き方について具体的に検討していない。**
  - 理由の最多は、「年齢が理由で仕事が見つからなさそう」次いで「考えてもどうなるものでもない」。

### 4. 既にセカンドキャリアを歩んでいる人からのアドバイス

- **19.1%がセカンドキャリアを開始している。10.8%は、アンコールキャリアを歩んでいるといえそう。**
  - シニア期に働くことを見据えて行動し、現在就業している人(セカンドキャリア実践者)は全体の19.1%。年代別では、50代15.3%、60代29.8%、70代12.0%
  - セカンドキャリア実践者の56.8%(全体の10.8%)が、現在の仕事にやりがいを感じており、アンコールキャリアを歩んでいる傾向がある。
- **これからシニア期の働き方を考える人は「自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い」**
  - セカンドキャリア実践者からの、これからシニア期の働き方を考える人へのアドバイスは、32.7%が「自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い」で最多。次いで「60歳以降のお金の問題について詳しく知っておいた方が良い」31.5%、「早いうちから考え始めた方が良い」28.9%。

## ■ 調査実施の背景

毎年10月は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が「高年齢者就業支援月間」と定め、高齢者の雇用問題についての理解と協力要請のため、厚生労働省等とともにさまざまな啓発活動が展開されています。

日本では65歳以上の就労者数が増えています。総務省の統計<sup>※3</sup>によると、65歳以上の高齢者の就業者数は2004年以降18年連続で増加し続け、2021年は909万人と過去最多となりました。2021年の高齢者の就業率(65歳以上人口に占める就業者の割合)は25.1%と、4人に1人以上が就業している状況です。年代別にみても、65～69歳の就業率は10年連続で上昇、70歳以上の就業率も5年連続で上昇しています。

また、Indeed上での仕事探しにおいても、「70代」をキーワードに仕事を検索された件数<sup>※4</sup>は5年間で53.7倍に、「60代」をキーワードにした検索数は5年間で7.9倍に増加しています。高齢者による仕事の検索が急激に増えてきていることが示唆されています。その一方で、Indeedの調査<sup>※4</sup>では、特に60代や70代などの高年齢層の求職者において、実体験として、「高齢であることを理由として仕事がなかなか見つからない」と感じている方が多い状況もわかりました。

Indeedは、これらの状況を受け、今後さらに高齢化が進む日本において特に課題となってくるであろう、シニア世代の仕事探しやセカンドキャリア・アンコールキャリアの構築を支援したいと考え、50代以降を対象に「シニア世代の就業」に関する意識調査を実施しました。Indeedは「We help people get jobs.」をミッションに掲げ、あらゆる人々が公平に自分にあった仕事を見つけられるような社会の実現を目指しています。本調査で明らかとなった結果も踏まえ、シニア世代の仕事探しや就業の支援も続けてまいります。

※3: 総務省統計局「統計トピックス No.132 統計からみた我が国の高齢者 - 「敬老の日」にちなんで -」  
(<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1292.html>)より

※4: 2022年4月Indeed調査結果 (<https://jp.indeed.com/press/releases/20220413>)より

## ■ Indeedのシニア世代の就業のサポート

Indeedでは、求職者の仕事探しやキャリアの構築をサポートするため、『Indeedキャリアガイド』において様々な記事を掲載しています。今回、シニア期の就業やアンコールキャリアの作り方に関連するコンテンツも公開いたしました。

- Indeedキャリアガイド: <https://jp.indeed.com/career-advice>
  - 自分らしいアンコールキャリアの見つけ方:  
<https://jp.indeed.com/career-advice/finding-a-job/how-to-start-encore-career>
  - 60歳からのキャリアチェンジを成功させるポイント:  
<https://jp.indeed.com/career-advice/starting-new-job/changing-career-at-60>
  - シニア世代におすすめのアルバイト11選:  
<https://jp.indeed.com/career-advice/finding-a-job/best-jobs-for-seniors-over-60>

## ■ 調査結果に関する有識者コメント：法政大学経営大学院 藤村博之教授

シニア期のキャリアを考える上で大切になってくることは、まず考えるタイミングです。本調査では3人に1人は60歳以降に考えているという結果となりましたが、その先も働く年数が長くなってきている中で、もっと早くから考えることが望ましいでしょう。タイミングとして推奨したいのは50歳。55歳だと定年までにできることの選択肢が限られやすく、45歳だとまだ自分のこととして捉えにくいといえます。50歳のタイミングであれば、65歳まで働くと考えてもまだ15年あるため、転職も含めて選択肢を広く考えることができ、新しいことに挑戦するエネルギーもあります。一方で老いを自覚し始めたり老後に不安を感じたりするタイミングでもあるため、実感をもってこれからのキャリアプランを考えることができることから、50歳がおすすめの年齢といえます。

また、これまでの経験の棚卸しも大切です。多くの方が会社・組織の辞令で仕事内容などが決められる環境で働いているため、自分のスキルや能力、経験を整理することがないまま定年を迎えてしまいます。企業で50歳の社員を対象にした研修を担当することがありますが、自分にあまりスキルや能力がないと感じている人が非常に多いです。これまで社会人経験を積み重ねる中で、スキルや能力がないことはありません。自分のキャリアを棚卸しして、言葉で表現できるようにしておくことが大事であると考えています。例えばキャリアアドバイザーのような第三者の力を借りたり、会社外での「他流試合」で違う世界の人と議論したりすることが、自分のスキルや能力を整理して、どう活かせるのかを考えるきっかけになると思います。

そして、年齢を理由に選択肢を狭くしたり諦めたりしないでほしいと思います。シニア期を迎えるまでに、新しいことに触れること、頼まれたことを引き受けること、わからないことを調べることを習慣化させると良いかと思います。毎日の行動の中で意識し続けることで、新しいものへの抵抗感をたなくなったり、仲間からの信頼も得られたり、新しい知識を獲得することにつながります。

仕事内容については、本調査ではシニア世代は、収入よりもやりがいや社会貢献を重視する傾向がみられました。これは世代問わず大切な要素ですが、シニア世代の特に年金などで一定の収入を確保できている人は、働く主な目的が収入ではなく、社会とのつながりの維持を求めているのではないかと考えます。自分の経験をもとに誰かの役に立ち感謝されることは、生きるために大切な自己肯定感につながります。

大切なのは雇用者の心がまえだけではありません。これからは雇用主側の意識の変化も求められていくと考えています。これからシニアになる社員に向けて、今後のキャリアのためにまず何を考え、行動すればよいのかを示すことも大切になっていくでしょう。例えば研修を通して、自分の強みや弱みを整理して、それをどのように活かせるかを考える機会を提供することもひとつの方法です。また世の中全体が人手不足の中で、体力的な問題もでてくるシニア世代であっても活躍できるような仕事やフレキシブルな働き方ができるような環境整備が求められていくと思います。

### 【有識者プロフィール】



藤村 博之（ふじむら ひろゆき）

法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授

京都大学助手、滋賀大学助教授、教授を経て、1997年に法政大学経営学部教授、2004年4月から現職。専門は労使関係論、人材育成論。著書に、『人材獲得競争—世界の頭脳をどう生かすか』（竹内、末廣と共著、学生社、2010年）、『新しい人事労務管理[第6版]』（共著、2019年）、『考える力を高めるキャリアデザイン入門』（編著、2021年）などがある。

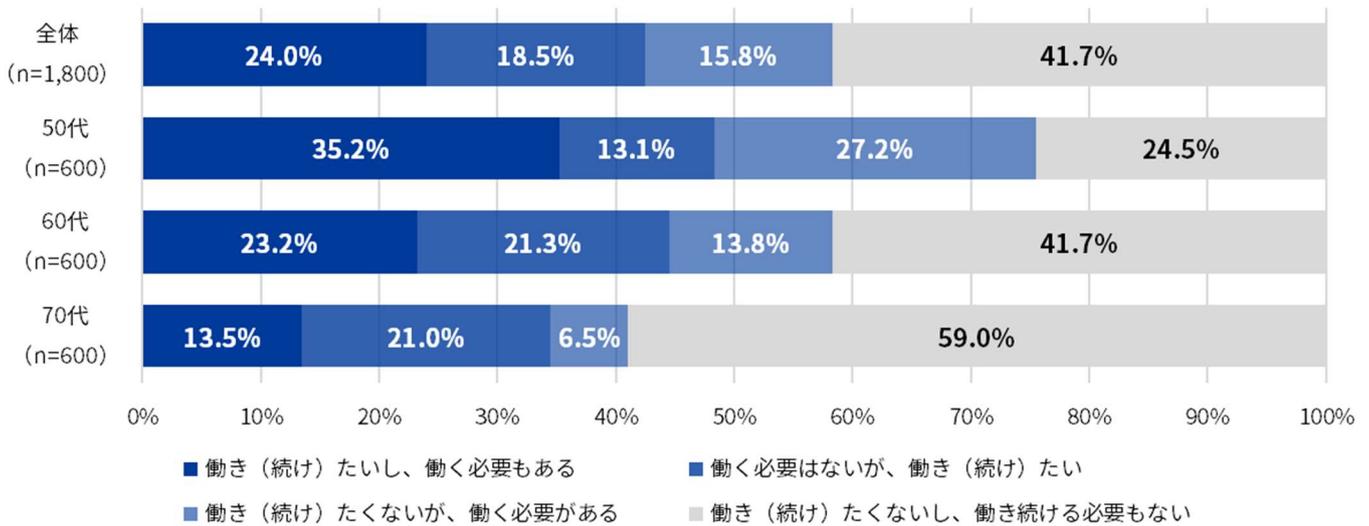
■ 調査結果詳細

1. シニア期（60代・70代以降）に働く意欲や必要性の有無

- 50代～70代の58.3%がシニア期も「働きたい」もしくは「働く必要がある」と感じている。

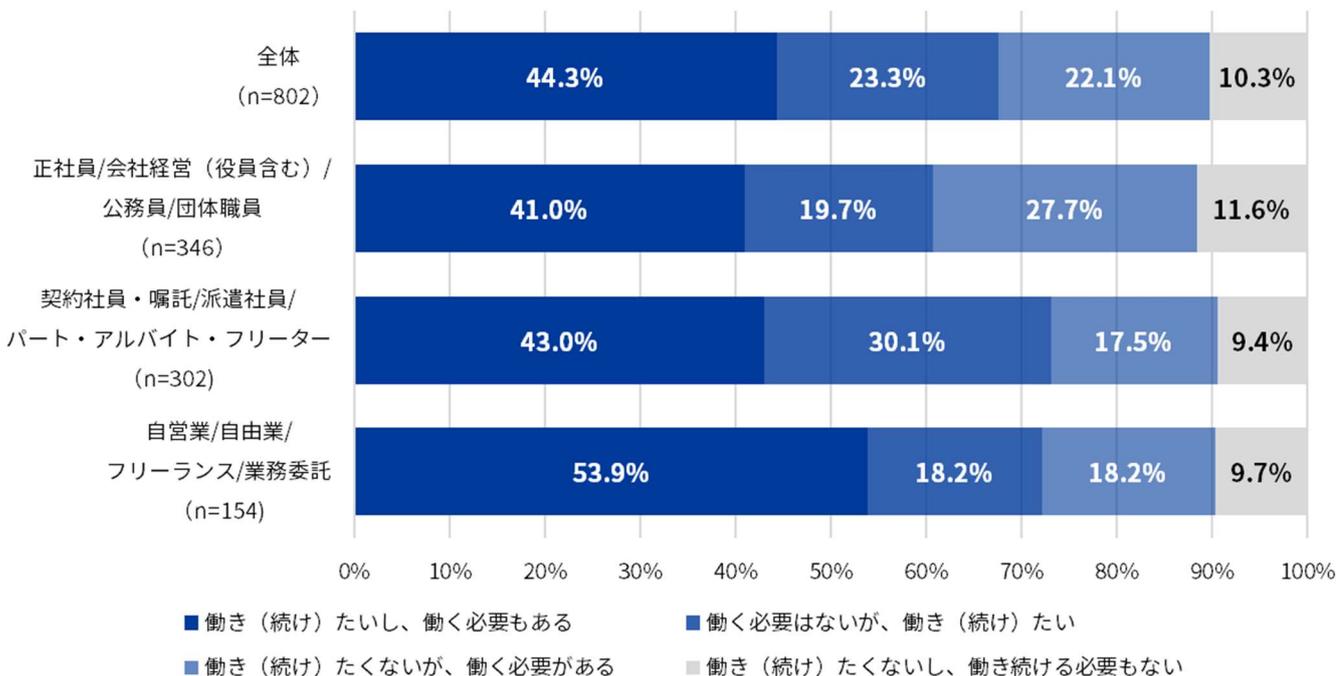
50代から70代の人（1,800名）に、シニア期に働きたいかどうかを尋ねたところ、全体の58.3%が「働きたい」もしくは「働く必要がある」と回答しました。年代別にみると、50代は75.5%と非常に高く、60代で58.3%、70代で41.0%と年代が上がるほど下がります。50代のシニア期の就業への意欲や必要性の認識の高さが明らかとなりました。

図1 シニア期に働く意欲・必要性（50代～70代／単一回答）



また現在就業している人（802名）を対象にみると、シニア期も「働きたい」もしくは「働く必要がある」と回答した人は、全体の89.7%にのびました。雇用形態別に確認すると、正社員等では88.4%、非正規社員等では90.6%、自営業等では90.3%と、いずれの層においても非常に大きな割合となりました。特に自営業等で「働きたいし、働く必要がある」と答えた人は53.9%と半数を超え、意欲も必要性も高い傾向がみられました。

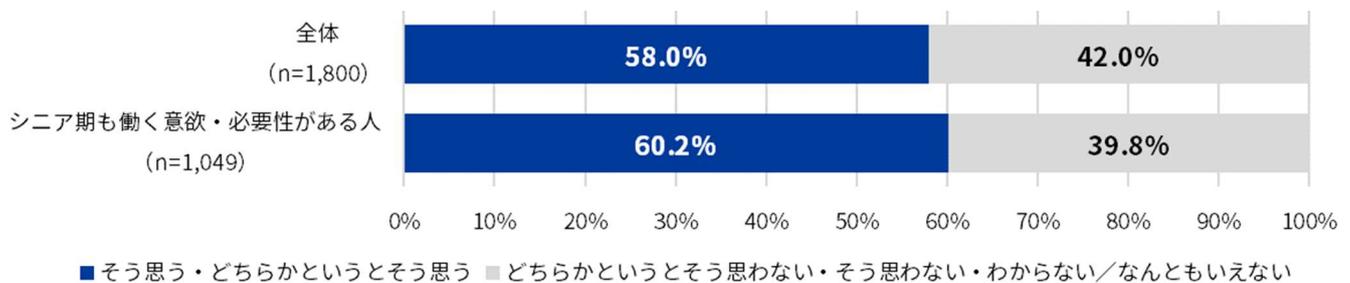
図2 シニア期に働く意欲・必要性（50代～70代の有職者／単一回答）



● 約6割がアンコールキャリアに興味あり。

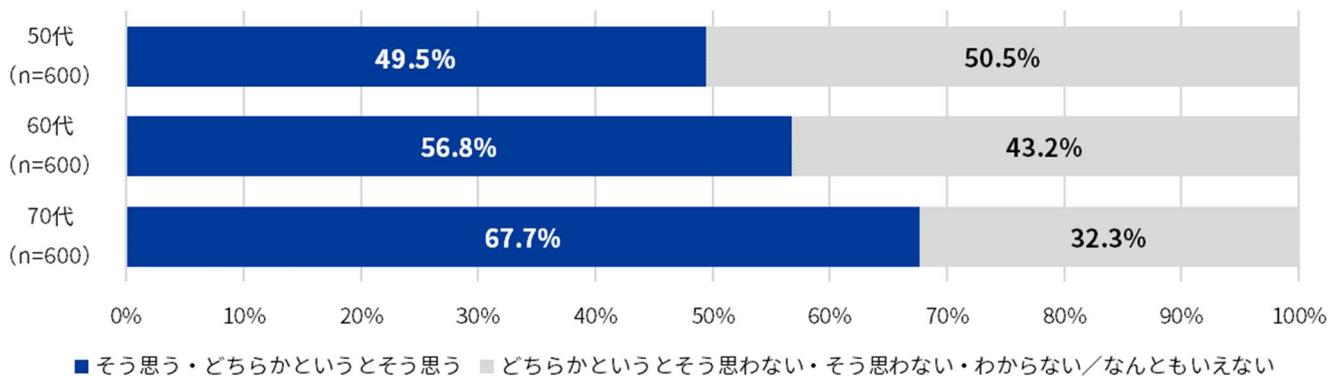
シニア期に働くときの価値観を尋ねたところ、「収入よりもやりがいや社会貢献を重視した仕事をした方が良い」と考える人は全体の58.0%にのびました。働く意欲や必要性を感じている人(1,049名)においては、60.2%が該当します。昨今、人生の後半に、自分の興味に関連した意義のある仕事や社会に良い影響を与えられるやりがいのある新しい仕事につく「アンコールキャリア」が注目を集めています。このアンコールキャリアに興味を持つ人が約6割にのびることが示唆されます。

図3 シニア期に働くときに  
「収入よりもやりがいや社会貢献を重視した仕事をした方が良い」と思うか



アンコールキャリアへの興味は、年代別にみると50代で49.5%、60代で56.8%、70代で67.7%と、年代が上がるほど高まることもわかりました。シニア期の働き方において、やりがいや社会貢献といった観点も今後ますます重要になってくるといえそうです。

図4 シニア期に働くときに  
「収入よりもやりがいや社会貢献を重視した仕事をした方が良い」と思うか

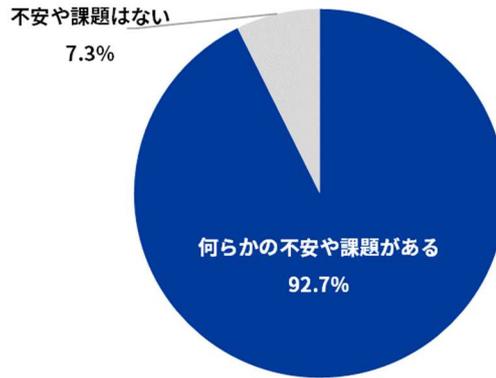


2. シニア期も働くことに対する不安や課題

● シニア期も働く意欲・必要性がある人のうち、92.7%が働くことについて不安や課題を抱えている。

シニア期に働くことに対して不安や課題を感じている50代から70代の人是非常に多いことが明らかとなりました。働く意欲や必要性がある人の中で、何らかの不安や課題がある人の割合は92.7%にのびました。

図5 シニア期に働くことに対する不安や課題  
 (シニア期も働く意欲・必要性がある50代~70代/n=1,049)



また、不安や課題の内容を尋ねたところ、上位に挙げたものは「健康状態が維持できるか」(59.6%)、「働くための気力を維持できるか」(38.5%)、「肉体労働に耐えられるか」(28.1%)でした。精神的・肉体的な健康や意欲の維持に不安を感じる方が多いようです。

表1 シニア期に働くことに対する不安や課題

(シニア期に働く意欲・必要性がある50代~70代 n=1,049/複数回答)

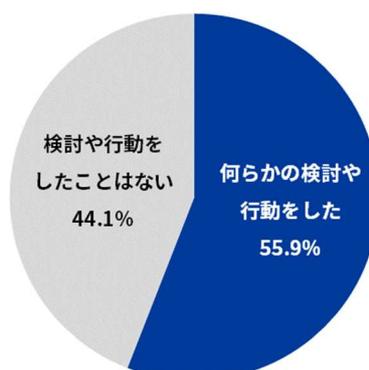
1位	健康状態が維持できるか	59.6%
2位	働くための気力を維持できるか	38.5%
3位	肉体労働に耐えられるか	28.1%
4位	十分な収入が得られるか	25.9%
5位	職場の人間関係がうまくいくか	22.8%

### 3. シニア期の働き方の検討

- 55.9%が、シニア期の働き方について具体的に検討・行動を始めている。

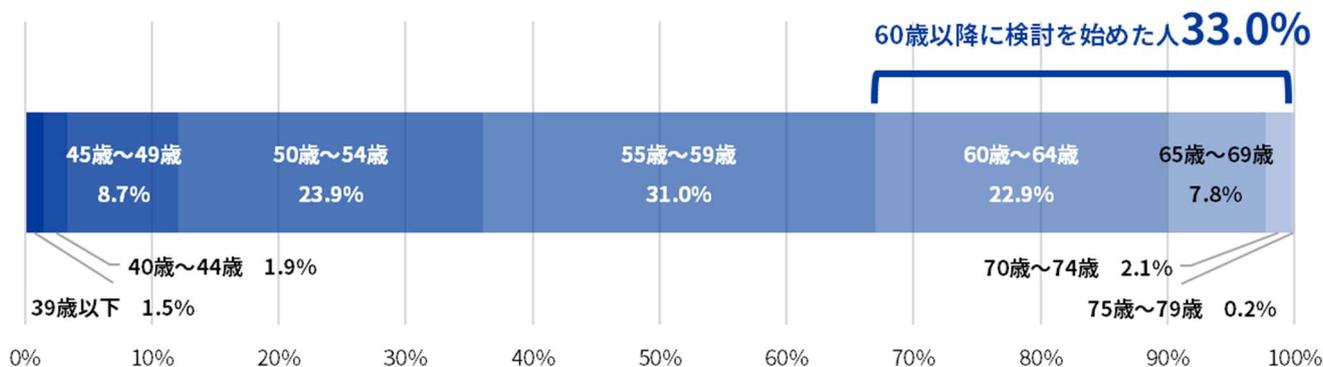
50代から70代で、既にシニア期に働くことを見据えて検討や行動を開始している人は、全体の55.9%にのぼりました。

図6 シニア期に働くことを見据えた検討・行動  
 (50代~70代/n=1,800)



いつからシニア期の働き方の検討や行動を始めたのかを尋ねたところ、60代に入ってから検討を始めた人が33.0%であることがわかりました。3人に1人は、実際に自身がシニア期に入ってから、働き方の検討を始めていることがわかります。5歳刻みで見ると、最も多かったのは「55歳～59歳」(31.0%)、次いで「50歳～54歳」(23.9%)、「60歳～64歳」(22.9%)でした。

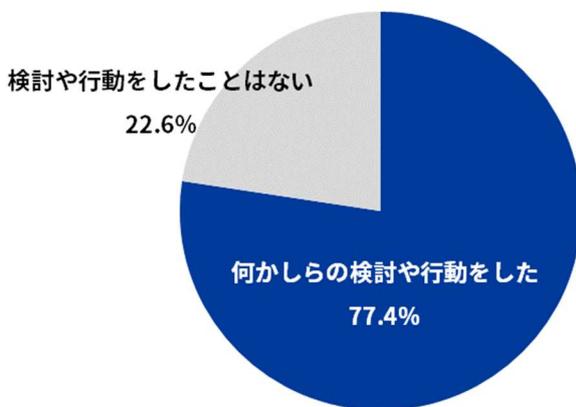
図7 シニア期の働き方について具体的に検討・行動し始めた年齢  
(シニア期に働くことを見据えて検討や行動をした50代～70代 n=1,007/単一回答)



● シニア期も働く意欲・必要性がある人のうち、22.6%は働き方について具体的に検討していない。

一方で、シニア期も働く意欲・必要性がありながらも、その働き方について具体的に検討していない人が22.6%いました。

図8 シニア期に働くことを見据えた検討・行動  
(シニア期も働く意欲・必要性がある50代～70代/n=1,049)



その理由として最も多く挙げられたのは「年齢が理由で仕事が見つからなさそうだから」(35.9%)でした。次いで「考えてもどうなるものでもないから」(21.1%)、「考える必要がない(現在の状況で問題がない)」(16.0%)でした。約4割が自分自身の年齢を理由に、シニア期の働き方を考えることに前向きになれていないことが見て取れます。

また、年代別に見ると同様に「年齢が理由で仕事が見つからなさそうだから」が最も多く、年代が上がるにつれて割合も大きくなりました。50代のみ「まだ先のこと/今考えることでもないから」が上位3位以内に挙がりましたが、検討していない理由は概ね共通していることがうかがえます。

表2 シニア期の働き方について具体的に検討していない理由

(シニア期に働く意欲・必要性があり働き方を検討していない50代~70代 n=237/複数回答)

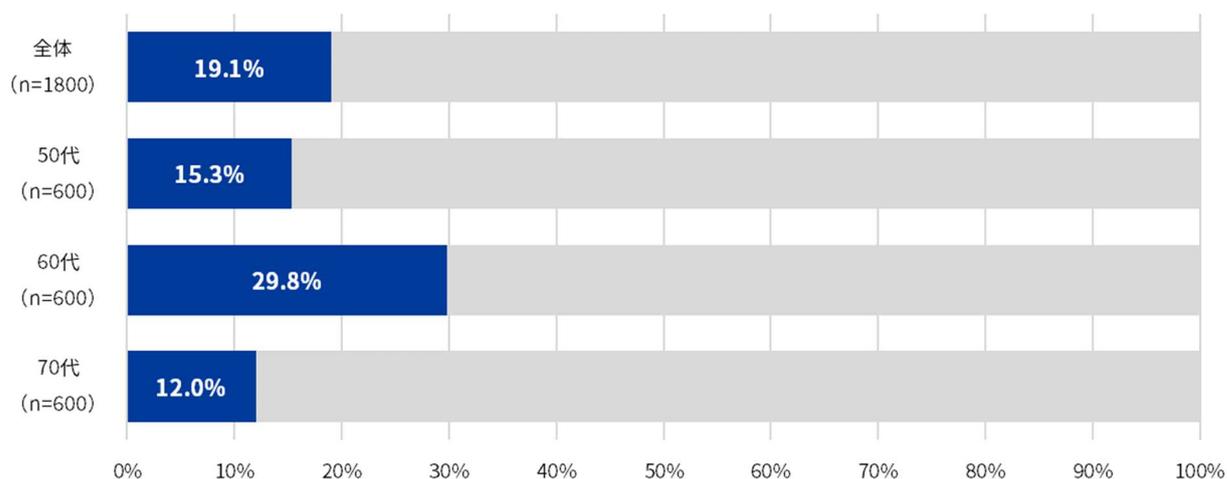
	意欲・必要性あり (n=237)		意欲・必要性あり 50代 (n=116)		意欲・必要性あり 60代 (n=79)		意欲・必要性あり 70代 (n=42)	
1位	年齢が理由で仕事が見つからなそうだから	35.9%	年齢が理由で仕事が見つからなそうだから	33.6%	年齢が理由で仕事が見つからなそうだから	35.4%	年齢が理由で仕事が見つからなそうだから	42.9%
2位	考えてもどうなるものでもないから	21.1%	考えてもどうなるものでもないから	20.7%	考えてもどうなるものでもないから	21.5%	考える必要がない (現在の状況で問題がない)	23.8%
3位	考える必要がない (現在の状況で問題がない)	16.0%	まだ先のこと/今考えることでもないから	19.0%	考える必要がない (現在の状況で問題がない)	20.3%	考えてもどうなるものでもないから	21.4%

#### 4. 既にセカンドキャリアを歩んでいる人からのアドバイス

- 19.1%がセカンドキャリアを開始している。10.8%は、アンコールキャリアを歩んでいるといえそう。

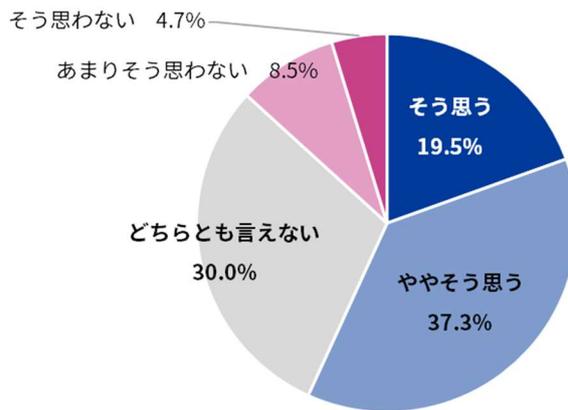
シニア期に働くことを見据えて行動し、現在就業している人（以下、セカンドキャリア実践者）は、全体の19.1%でした。年代別では50代が15.3%、60代が29.8%、70代が12.0%と、セカンドキャリアを実践している人の割合は60代が最も大きい結果となりました。

図9 シニア期に働くことを見据えて行動し  
現在就業している人（セカンドキャリア実践者）の割合



また、セカンドキャリア実践者に「今の仕事にやりがいを感じているかどうか」を聞いたところ、56.8%が「そう思う」もしくは「ややそう思う」と回答しました。これは全体の10.8%にあたります。セカンドキャリア実践者の6割弱（50代から70代の約1割）が現在の仕事にやりがいを感じており、アンコールキャリアを歩んでいる傾向が伺えます。

図10 今の仕事にやりがいを感じているか  
(セカンドキャリア実践者 n=343/単一回答)



● **これからシニア期の働き方を考える人は「自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い」**

最後に、セカンドキャリア実践者に、これからシニア期の働き方を考える人へのアドバイスを聞きました。

上位3位に挙げたのは「自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い」(32.7%)、「60歳以降のお金の問題について詳しく知っておいた方が良い」(31.5%)、「早いうちから考え始めた方が良い」(28.9%)でした。

この結果から、シニア期の働き方を考える上では、まず早いうちから考え始めること、そして自分のスキル・能力を整理することが大切であるとわかりました。

表3 これからシニア期の働き方を考える人へのアドバイス  
(セカンドキャリア実践者 n=343/複数回答)

1位	自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い	32.7%
2位	60歳以降のお金の問題について詳しく知っておいた方が良い	31.5%
3位	早いうちから、考え始めた方が良い	28.9%
4位	働き方/働くスタイルについて、考えておいた方が良い	25.1%
5位	パソコンがうまく使えるようになっておいた方が良い	24.5%

■ **「シニア世代の就業」に関する意識調査 概要**

- 調査主体：Indeed Japan株式会社
- 調査対象：50代～70代、各世代の男女各300名（計1,800名）※世代、男女で均等割付
- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：2022年9月7日～9月8日

**Indeed (インディード) について**

Indeed は、最も多くの人が見つけている世界 No.1 求人検索エンジン\*です。現在 60 カ国以上、28 の言語でサービスを展開し、求職者はパソコンやモバイルで何百万もの求人情報を検索することができます。月間で 2 億 5 千万以上のユーザーが Indeed を利用し、求人検索や履歴書の登録、企業の情報検索を行っています。詳細は <https://jp.indeed.com> をご覧ください。

\*出典：Comscore 2021 年 9 月総訪問数